

カルメル

霊性センターニュース



2023年12月 403号

購読者の方々へのお知らせ

+主の平和

『カルメル霊性センターニュース』を常日頃からご愛読・ご利用頂きありがとうございます。

月刊誌として毎月発行してきた冊子でございますが、今年度を以て紙面としては終了する事となりました。

はじめは故奥村神父様が創められた数枚の発行物が頁数を増やし、400号にも亘り続けられました事、皆様のご協力、御献身に心より感謝申し上げます。

昨年度よりホームページへの掲載を始め、紙面からWebへの移行を進めて参りましたが、今号12月号を以て、紙媒体での発行を終了とさせていただきます。

皆様へは急なお知らせとなってしまいました事、深くお詫び致します。

『カルメル霊性センターニュース』は今後、Webでどなたでもご覧になれるものとして、これからもご愛用頂ければと思います。
宇治カルメル会のホームページにて、過去のバックナンバーも含めて掲載されておりますので、是非ご利用下さい。

宇治カルメル会修道院ホームページ
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

心より感謝と祈りのうちに

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「霊性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

目次

カルメル聖性センターニュースWeb移行へのお知らせ	・・・ 1
目次	・・・ 2
心の泉	・・・ 3
カルメル会の企画案内	・・・ 25
東京	・・・ 26
名古屋	・・・ 27
京都	・・・ 28
キリスト教放送局F E B Cのご案内	・・・ 32
諸所の企画案内	・・・ 33
通信深読お申込みのご案内	・・・ 38
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	・・・ 39

心の泉



聖母子像（宇治カルメル会修道院）



第三卷

第五十八章 深遠な奥義や、はかり知れない神のみ旨を、 みだりに探ってはならない

3 聖人は神の作品

ある人は、熱心な信心によって、あれこれの聖人を慕う。しかし、この思いは、神からのものではなく、むしろ人間的なものである。聖人たちをつくったのは私である。私が彼らに恵みを与え、光栄にあずからせた。私は、それぞれの功德を知り、先だって私の甘美な祝福を与えた(詩編 21・4 参照)。私は、愛する者を永遠から知っていた。そして、恵みをもって世間のなかから彼らを選び出した。彼らのほうから私を選んだのではない。(ヨハネ 15・16、19 参照)。私は彼らを恵みによって呼び出し、慈悲によって引きつけた。私はさまざまないざないを通して、彼らを永遠の救いに導き、すぐれた慰めを与え、不屈の志をそそぎ、その忍耐に栄冠を与えた。

4 神は聖人のなかに不思議な業をおこなう

私は彼らのうち、上席の者も末席の者も知り、限りない愛をもって彼らをつつむ。すべての聖人において称賛されるべきなのは私だけである。私は何者にもまさって、彼ら一人ひとりから祝され、たたえられるべき者である。彼らが功德を積む前に私は彼らを光栄に上げ、光栄に予定したからである。

だから、聖人たちの小さな者の一人を軽蔑すれば、偉大な者も崇めていないことになる。「小さな聖人も大きな聖人も私がつくった」(知恵 6・7)。そしてある聖人に与えなければならない称賛を与えない者は、天の国にいるほかの聖人、そして私をも尊ばないのである。彼らは愛の結びによって一つのものであり、同じ感情と同じ意志をもって、お互いに愛のうちに一致する。

5 世間的な尺度を用いないこと

また彼らは、これがもっともすぐれたことであるが、自分と自分の功德より以上に私を愛している。なぜなら、彼らは自分への愛を超越して私への愛を保ち、この愛において喜びと休息とを味わっているからである。彼らを私から引き離すもの、この高さから彼らを引き下ろすものは何一つない。永遠の真理に満たされた彼らは、尽きることのない愛徳の火に燃えているからである。

だから、自分自身の楽しみを愛することしか知らない肉的な人や官能に浸る人は、聖人たちの状態について議論する資格がない。この人々は永遠の真理に焦点を当てるのではなく、自分自身の好みによって聖人たちを否定したり、肯定したりする。

教会暦では王であるキリストの主日を11月最後の日曜日に祝いました。12月初めの主日はもう待降節第1の主日です。新しい年B年、教会暦ではもう新年となります。この新しい年に、「世の光」、「命のパン」として来られたキリストを、私たち一人ひとりが日々の生活のなかでさらに深く信じていくことができますように。



親愛なる聖テレーズ、
教会は福音の明るさと香りと喜びを光り輝かせる必要があります…。
私たちがあなたのように、私たちへの神の大きな愛に
いつも信頼できるよう助けてください。～教皇フランシスコ 使徒的勧告～
ここまで 小さくなられた神をわたしは恐れることはできません
わたしは愛する 幼いイエスを！
～テレーズ～

わたしは幼きイエスを愛する

イエスは私に、多くを赦してくださったのではなく、
すべてを赦していただきました。 ～テレーズ～

おん子は 今度 馬小屋にではなく、
わたしの そしてわたしたちの心に お生まれになります
おん子こそ インマヌエル、「わたしたちと共におられる神」なのですから。

～三位一体の聖エリザベット～



この子は泣いています

ごらん かれはあなたを呼んでいます
大声で わたしに呼びかけて
何を わたしに求めておられるのでしょうか。

かれを愛しなさい

かれはあなたを愛し あなたのために 寒さにふるえている
ごらん かれはあなたを呼んでいます！ ～アビラの聖テレサ～



日々の生活のざわめきの中で、幼子の呼びかけを
聞き分けることができますように…
よい待降節とご降誕をお迎えください。

伊従 信子(いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

まったくき信仰

九里^{くのり} 彰

浄土真宗の開祖である親鸞は、「自然法爾（じねんほうに）」という念仏信仰の核心について、次のように説明している。

自然というは、自はおのずからという。行者のはからいにあらず。しからしむということばなり。然というはしからしむということば、行者のはからいにあらず、如来のちかいにてあるがゆえに。法爾というは、この如来のおんちかいなるがゆえに、しからしむるを法爾という。法爾はこのおんちかいなるがゆえに、すべて行者のはからいのなきをもって、この法のとくのゆえにしからしむというなり。すべて、人のはじめてはからわざるなり、このゆえに、他力には義なきを義とすとするべし。（『末燈鈔』）

これは、十字架の聖ヨハネが描いたカルメル山の山頂の風景に似ている。「無、無、無、無、無」とすべてを捨てて、山を登りつめるが、「山頂においても無」と、『完徳の山』の図には書かれている。そして、「ここにはもはや道はない。なぜなら義人にはもはや掟（法）はないから。つまり、彼にとって彼自身が掟（法）だから」と。

どういうことかということ、山頂の絶対無において、人（靈魂）はまさに神と一体となり、パウロが「わたしは、キリストともに十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」（ガラ 2・19-20）という魂の状態にあるからである。義と不義（罪）、善と悪、聖と俗（汚れ）といった対立を超え出るのである。

浄土真宗では、南無阿弥陀仏の名号の内に、機と法、すなわち南無（礼拝する者）と阿弥陀仏（礼拝される者）が一体となるが、二が解消されて一となるのではなく、二は一であり、一は二であるとの意味での機法一体である。これはキリスト教の神人合一、聖化、神化というテーマと重なっている。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（185）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

おお、何という交換！（1）

喜びに関しては、「初めにことばがあった」という福音に関するロマンス体詩において、キリストの誕生について語る時、彼の描く情景は、味わい深いものです。

人々は 歌を歌い、
天使たちは 調べを奏でた、
こんな（に違う）二者の間に
行なわれた婚姻を 祝って。
しかし、飼葉桶に置かれた神は
そこで、涙を流して 泣いていた、
その涙は 花嫁が
持参金として持って来た 宝石。
そして、こんな 交換（とりかわし）を見た母は
言葉もなかった。
人間の涙は 神のものとなり
歓喜（よろこび）は 人のものとなった、
それと これとは
常に 縁のないものだったのに。(297-310 節)

この交換、その取り換え、人間への、私たちの地への真の深いよろこびの到来に気づいたのは、おとめマリアでした。（続く）



(P. 九里訳)

待降節 第1主日 (B)

(マルコ 13 : 33 - 37)

B年に入りました。今日から待降節です。教会の典礼歴の1年は、主の降誕を準備することから始まります。主の降誕、主が私たちの内にやって来る。

主の到来は、暗闇の中に灯る光に喩えられます。私たちはすでに洗礼を受け、キリスト信者として新たに生まれ、信仰の歩みを歩んでいますが、私たちを取り巻く暗闇のような状況は相変わらずそこにあります。私たちは日常を生き抜くことに精一杯で、あるいは、日常に心を奪われ、神のことを忘れて生活しがちです。

待降節第1主日のメッセージは、「目覚めていなさい」ということです。「目覚めていなさい」とのメッセージを受けて私がパッと思い浮かぶみ言葉は、私たちが目覚めていない、眠っていることを注意されるイエスの言葉です。ゲッセマネの園でイエスが切実に祈っていた時、イエスは今の苦しみの時にあたって弟子たちに共にいて目覚めていて欲しかったのですが、弟子たちはその時眠ってしまっていました。それが3度も繰り返されました。イエスは弟子の代表のシモン・ペトロに、「シモン、眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い」(マルコ 14:37-38)と言われました。

私たちはたやすく信仰において眠ってしまいます。出来事の内に語られる神の声を聞くことを忘れ、神なしの生活に埋没してしまいます。このような私たちにイエスは、目を覚まして、信仰の内に歩みなさいと何度も繰り返し、諦めずに語り掛けています。ご降誕の喜びは、暗闇の中で神を待ち望み、神のメッセージを探し求めて見出し、導かれた貧しい方々にもたらされました。

私たちは神なしの世界で、信仰において眠り続けて生きることが可能です。しかし、眠り続けていたら、ご降誕の喜びを体験することは出来ません。御父なる神様は、御子イエス・キリストを通して、ご降誕の喜びに全ての人が与れるよう語られています。私たちは容易く眠ってしまいますが、眠ってしまっている私たちに神が語り掛け続けています。「眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い」。

この語り続けられる神の熱意に信頼して、目覚めてご降誕を迎えられるように、日々の小さな祈りを大切にしましょう。日々の小さな祈りで神を思い起こし、神のメッセージを聞く小さな信仰の歩みが、私たちを、暗闇に照らされる神のわざ、救いの感動を体験することへと繋がるでしょう。

(P. 志村)

待降節 第2主日 (B)

(マルコ 1 : 1 - 8)

待降節第2主日の福音は、聖マルコの福音の最初からです。聖ルカと聖マタイと異なり、マルコはイエスの誕生についての詳細は述べていません。

「神の子イエス・キリストの福音の初め」から始まります。それからマルコは、預言者イザヤの書から預言者ヨハネ洗礼者の生涯と使命について引用しています。このイエスという称号が、描写全体の基調であり、深い意味を持っています。ヘブライ語で Jesus は「Yeshuah」を意味します。このなじみある名前は、ナザレ人の人間としての、歴史上の、この世の人格を表しています。Christ はギリシャ語で「油注がれた主」を意味し、ヘブライ語で「Messiah」です。この称号は、イエスが真にイスラエルの民の皆が待ち望んでいた「ダビデの子」「神の王国の王」であることを示しています。神の子という称号は、復活のときにはじめて本当の意味を見出します。マルコが書いたときには、キリスト者はこの聖なる言葉によってイエスの神性に対する信仰告白を表していました。

洗礼者ヨハネの出現に対するマルコの描写は、ユダヤの預言的伝統との繋がりを強調しています。荒れ野に住み、らくだの毛衣を着、いなごと野密を食べているという苦行者としてのヨハネについてのマルコの描写は、旧約聖書の預言者たちを思い起させます。ユデアとエルサレムの人たちは、彼のもとに群がり、悔い改めと赦しのメッセージを聞き、洗礼を受けるために来ました。この一節から、洗礼者ヨハネの役割は、後から来るもう一人、ヨハネより偉大な人のために道を準備することであることは明らかです。

洗礼者ヨハネは、待降節のあいだ、私たちにお手本として示されています。クリスマスとき、私たちはイエスに会いにいき、喜んで迎えるのです。私たちは心を清め、自己回心のために働き、誤った行いを変え、悪い行い等々をあらためてイエスの到来を準備する必要があります。私たちはまた罪の赦しのために告解に行きます。洗礼者ヨハネのように、自分より偉大な者への奉仕に対する使者です、私たちの洗礼は、他者を回心の生活へ呼びかけるように任命しています。

(Sr. Pauline)

待降節 第3主日

(ヨハネ 1 : 6-8、9-28)

主のご降誕まで残すところ1週間余り。今日17日から待降節第2の期間に入ります。本来ですと17日の福音の箇所は、マタイ福音書の冒頭箇所（1章1節から17節まで）イエス・キリストの系図です。今年は主日となったため、残念ながら読まれません。待降節第2の期間に入るにあたって、最初に選ばれている大切な福音の箇所ですので、こちらもお読みになられてはいかがでしょうか。

さて今日の福音ですが、救い主であるイエス・キリストの到来を告げるために選ばれ、神から遣わされた一人の人、洗礼者ヨハネが登場します。ヨハネは証しするために来たわけですが、彼は光である救い主イエス・キリストでなく、救い主イエス・キリストを証しするため、すべての人がヨハネによって信じるようになるためと記されています。

主の到来を告げ知らせるため選ばれ遣わされたヨハネ。そのヨハネは誰であるのか、何のため遣わされたのかを人々は知ろうとし、様々な人々をヨハネの元に遣わしました。そして尋ねられた際、「わたしは荒れ野で叫ぶ声」そして『主の道をまっすぐにせよ』と人々に答え、また訴えかけました。

主のご降誕への第2の期間に入った私たちに向かって、ヨハネは呼びかけています。『主の道をまっすぐにせよ』と。救い主が到来される、来られるにあたって、私たちはどの様に準備しているでしょうか。私たちに向かって主がまっすぐに来られるでしょうか。もしその道が曲がっているなら、その道をまっすぐにすることはできないのでしょうか。

同様に私たちは主が来られる道に、私たちは障害物、障害を置いていないでしょうか。もし障害物、障害があるならば、私たちはなぜ取り除かないのでしょうか。主の到来の歩みを遅々たるものにしてしているもの、それは何よりも私たちの罪なのかもしれません。

私たちが神からの光によって自分自身を見つめ、その恵みによって自分の罪を自覚し、悔い改めて、私たちの心を主の到来にふさわしく準備するなら、主は喜んでまっすぐにそして速やかに私たちのところへ、私たちの心に来て下さることでしょう。

私たちが良い準備のうちに、主のご降誕、主の訪れを迎えることができますように。神の恵みと祝福がいつも豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

待降節 第4主日 (B)

(ルカ 1 : 26-38)

B年はマルコによる福音書を中心に朗読されますが、同福音書ではご降誕の場面が描かれていません。そこで待降節第4主日の今日、ルカによる福音書の中から、神から選ばれたおとめマリアへのお告げのとても美しい場面が読めます。マリアは、恐れや不安にかかわらず、神のみ旨を引き受けました。

天使ガブリエルの受胎告知によって人類の救いははじまります。ガブリエルは、神から約束され、人々が待ちこがれていたメシアの到来を告げるためにナザレの貧しい村に派遣されました。「はい。お言葉どおり、この身に成りますように」とマリアが言った瞬間、地上で最も幸いな出来事が起こりました。祝されたおとめの胎内に神の御子が人間として宿ったのです。これこそ、愛である御父からの最大かつ最も尊い贈り物です。マリアは、ひとり子を遣わすという御父の救いのご計画を成就するために神に自分をを用いてもらうことを受諾することで、人類に福音をもたらす特別な役割を果たします。神はおとめマリアを通して受肉し、私たちと一つになりました。

今日の福音書は、自分がどのように神のみ前に立っているかを確かめるべく、自分のところをしっかりと見つめることを私たちに促します。もうすぐクリスマスです。かいばおけの幼子は、神が私たちのためにこれまでにこなしてくれしたことや今でも行なってくれていることを思い起こさせてくれます。私たちは、そのお返しに何をしていますでしょうか？キリストに心から従う者として生きることで感謝を表していますか？今こそ、誤った進路を変えて正しい道に戻る時です。純粹で謙遜なころをもつて、マリアのように「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」と神に応答する準備を常にしましょう。「私はどうすれば主が完全に住まう場所になることができるだろうか」と深く黙想しましょう。

キリストのうちの友である皆様、メリークリスマス！そして喜びにあふれた2024年を！！平和の君であるイエスが全世界に平和と調和をもたらしてくださいように。皆様に神の豊かな祝福を。

(Sr. Paulina)

聖 家 族

聖家族の祝日のお祝いは、ヨゼフとマリアとイエスを真の地上の家族として見る時でもあります。マリアは、幼子イエスを深く愛していましたし、ヨゼフを尊敬していました。ヨゼフにとってイエスは自分の持っているものの中でもっとも大切なものでした。そして、彼はマリアを神殿として大切にしていました。なぜなら彼女は、自分の胎内で、神から人間になった子供を身ごもったからです。イエスは、マリアとヨゼフを人間の生き方を学ぶ聖なる場として、仰ぎ見ていました。彼らは互いを尊敬し、大切にしました。彼らは家族生活の大きな心配や悲しみを理解する家族なのです。

聖家族は、どのようにしたら家族、本物の家族になることができるかを模範として示してくれます。家族は庭であり、そこに植えられたものは何であれ成長するはずで、す。けれども家族という庭は、時間、心遣いと耕し、笑いと肯定という太陽の光ではあるけれども、困難という雨が降り、心配して緊張するときには、重要な事柄について真剣に話し合うことも必要とします。同時に苦々しい態度、ねたみ、怒り、許すことのできない心の傷をひっくり返してしまうだけの厳しい部分も必要です。

聖書が「聖」という言葉を使うとき、それは健全であり、欠けるところがないということを示しています。聖性は、ユーモアと笑い、共感と理解、そして許し許されるための能力、といった概念を含んでいます。愛することと愛されること、これが聖性というものです。聖家族には葛藤がなかったわけではなく、互いに傷つけてしまったことがまったくなかったということもないでしょう。家族における聖性は、むしろ許すことと和解することを学ぶことから生じるものなのです。家族生活において聖であるとは、私たちの内面にある神の光にすべてを委ねようと懸命に努めることを意味しています。それは、私たちの生活に創造的な秩序をもたらすために、来る日も来る日も苦闘することなのです。

家族は社会における、最初の生きた細胞です。男性と女性が社会的価値を学び、神のご計画に従って生きるためのインスピレーションを見出す最初の場合は、家族の中にあるのです。聖書のみ言葉を注意深く聞き、礼拝することによって、より深い神との関係、またお互い同士の関係が、家族の中に生まれます。まず、私たち自身の家族の輪の中で、世界に健全さを取り戻すことを始めましょう。私たちの心と家庭にキリストの平和を保ち、一人一人が神から割り当てていただいた務めを果たしましょう。私たちはすぐに世界を回心させることはできないかもしれませんが、それをすでに始めているはずで、す。世界は、一つ一つの家を寄せ集めたものなので、すから。

(Beatrice)



2023年 秋号 No.390

《ともに歩む—パンデミックの世界の中で》
神の善意に参加する、「シノダル」キリスト者
ポーリン・フェルナンデス

カルメルの外のカルメル
—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(3) 鶴岡賀雄

エディット・シュタインの青春
—ブレスラウでの学生時代 釘宮明美

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の霊性(3)
ウイリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の霊は導く(7)
—テレーズ生誕(1873~1897)—五〇周年を迎えて
伊従信子

風に吹かれて再び(5)—締め切り日 原 造

平和への道(3) 九里 彰

霊的研究会講義録(21)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2023年 特集号

現代、宗教を生きる事の意味：
カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中—心の深い深いいちぼんの奥底に…
—アビラの聖テレジアの宗教性 中川博道

人間学としての精神医学 濱田秀伯

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯 九里 彰

神との出会いの喜び
—教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて 松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性 大瀬高司

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

いのちの言葉 12月

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
これこそ、キリスト・イエスにおいて、
神があなたがたに望んでおられることです。」

(1 テサロニケの信徒への手紙 5・18)

パウロがテサロニケの信徒に手紙を書いた時期は、イエスと同時代を生きた人々——イエスを見聞きし、その悲劇的な死、そして驚くべき復活と昇天を目撃した人々——の多くがまだ生きていた時代です。彼らはイエスが遺した足跡を知っており、その再臨が間近に迫っていることを予期していました。パウロはテサロニケの共同体を愛し、その生活、証し、実りにおいて模範的であった彼らにこの手紙を書き、皆に読んでもらうようにと要請しました(1 テサ 5・27 参照)。その中で彼は、「私たちに倣い、主に倣う者」(同 1・6 参照)であるようにと彼らに勧め、次のように要約しています。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

このパウロの勧めの言葉を貫く強いメッセージは、「神は私たちに期待する『こと』だけではなく、『いつ』期待しておられるか」ということです。つまり、止むことなく、常に継続して、ということなのです。

ですが、「喜ぶように」と命じることなどできるものでしょうか。人生とは、問題や悩み、苦しみや苦悩をもたらすもので、社会の現実、砂漠のように乾いており、時には敵意の牙すら私たちに向けてくるものであると、誰もが経験しています。

それでもパウロの言う「喜び」を、常に得られると、パウロが信じる理由があります。

彼の言葉は、キリスト者に対してのもので、彼は共同体の人々に、キリスト者としての生活に真剣に取り組むようにと勧めています。そうすることで、復活の後にイエスが約束されたこと——彼らのうちにイエスご自身が満ち満ちたかたちで生きること——が可能になるからです。

時折、私たちもそれを体験できます。愛を生きるとき、イエスはその人のうちに存在なさいます。誰もが、自分への執着を断ち、他者への無償の愛、友人の支えを歓迎し、「愛はすべてに打ち勝つ」² という信頼を保つなら、この「愛の道」に入ることができるのです。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

様々な宗教や信念を持つ人々との対話は、「祈ること」の普遍性をより深く教えてくれます。「祈ること」がいかに根源的な人間の行為であるかに気づかされるのです。「祈ること」で人は自らを形作り、自らが高められるのです。

では、どうしたら絶えず祈ることができるのでしょうか。正教会の神学者エフドキーモフは「祈り、規則、習慣を『持つ』」だけでは十分ではない。祈りそのもの

と『なる』こと、受肉した祈りとして『存在する』こと、自らの生涯を典礼そのものとする、そして、ごく日常的な事柄でもって祈ることが必要である」³と書いています。

また、キアラ・ルービックは「私たちは聖霊によって、愛と御父への信頼に満たされた心をもって、子どものように（神様を）愛することができます。この信頼によって私たちは、神様とより頻繁に語り合い、自分の色々なこと、決心したこと、計画していることなどを、神様に伝えるようになります。」⁴と書いています。

そして、誰にでも可能な「常に祈る」方法があります。それは、何かする前に一旦立ち止まり、「あなたのために」（これをします）という意向を、自分の中で新たにすることです。これは、私たちの活動や生活全体を、絶え間ない祈りへと、内面から変えていくシンプルな実践法です。

**いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。**

「すべてのことにおいて感謝しなさい。」それは、人間一人ひとりと諸民族、歴史や宇宙全体を、静かに支え、いざなっておられる方への、感謝に満ちた愛から来る、自由かつ真摯な態度と言えるでしょう。また、共に歩いてくれて、私たちが自分だけで完結することはない存在であることに気づかせてくれる、周りの人たちへの感謝も意味するでしょう。

喜ぶこと、祈ること、感謝を捧げること。この三つの行為は、神の目から見た、神が私たちに望んでおられる在り方に、私たちに近づけ、神との関係をもっと豊かにしてくれるものです。「どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように」⁵という信頼を持って。

これらのことを実践することで、クリスマスを迎える準備をしましょう。主の降誕の喜びをより深く味わい、この世界をより良い場所にするために、私たち自身の内面で、家庭で、職場で、広場で、平和を紡ぐ者となるために。今日（こんにち）、これほど必要で、緊急なことが他にあるのでしょうか。

ビクトリア・ゴメスと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. ブープリウス・ウェルギリウス・マロー『牧歌』第10歌69より。
ジェンロッソによる楽曲→
<https://music.apple.com/es/album/lamore-vince-tutto-single/1595294067> キアラ・ルービック、いのちの言葉 1979年8月より
3. パーヴェル・エドキーモフ La preghiera di Gesù in La novità dello Spirito (『霊の新しさ』における「イエスの祈り」) 未邦訳、ミラノ 1997
4. キアラ・ルービック『Conversazioni (対話)』未邦訳、Città Nuova, Roma 2019, p. 552.
5. テサロニケー 5・23

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年9月25日

イタリア発：イタリアの跣足カルメル在世会が全国大会開催



イタリアの全国カルメル在世会は、今年7月12日～15日まで、アリッチャで開催された全国大会への参加のために集合しました。

今年の大会テーマは「生きる意味の探究—幼きイエスの聖テレジアが現代の人々に伝えていること」で、「小さき“テレーズとその両親の教えに照らして、テレーズのカリスマを共に分かち合い、深め黙想することでした。」

この大会に跣足カルメル修道会のミゲル総長、カルメル在世会のラミロ総長代理、カルメル在世会イタリア代表補佐のアルド神父様が臨席されたおかげで、わたしたちは真の特別なカルメルファミリーであることが実感できました。

これらの黙想と兄弟姉妹の友情は、わたしたちが信徒として召命を生きる喜びをもって、わたしたちの聖人リジューの聖テレーズの模範に倣い、使徒職と宣教に献身するカリスマに忠実に生きよう激励してくれました。そして、エミリオ・マルティネス神父とヨハネス・ゴラントラ神父の深い活気あふれる考察や、在世会員の様々な人生経験談と、ロアーノの若者グループによる「テレジーナの聖なるレクイエーション」の演劇披露が、これらすべての人々の貢献により、この大会の参加者に豊かで美しい経験をもたらしてくれました。

(訳・注：小宮山延子)



新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chaque Etoile
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN：9784907991807

発売/発行年月：2022 年 3 月

判型：A5

ページ数：184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

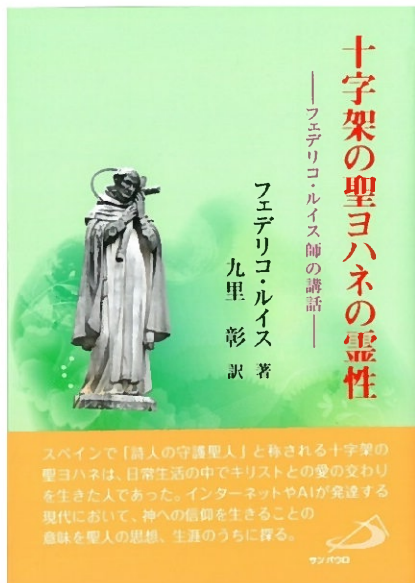
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 誓 愿(1)
 - 第2章 誓 愿(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対 話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英 知
 - 第18章 活 動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

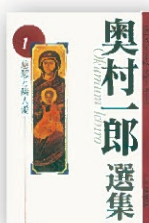
イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

奥村一郎選集



カトリック教会は、第二バチカン公会議において、世界の諸宗教・諸文化にも開かれた福音の現代的意義を世界に宣揚した。その精神を深く一身に体现した靈性指導者、それが奥村一郎師である。幼子のような無と赤裸の心で神を求めるカルメル会靈性を深めつつ、禪仏教をはじめとする東洋的靈性との対話に生涯を懸け、日本人の心の琴線にふれるキリスト教を語った。分かつたことのない心で、「すべて」である神へ。



第1巻

慈悲と隣人愛

解説：西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読む

み、キリスト教の本質理解に近づく。



第2巻

多文化に生きる宗教

解説：橋本裕明

宗教対話と靈性交流から得られた柔軟な視点から、日本での

新たな宣教の可能性を示す。



第3巻

日本の神学を求めて

解説：小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の視点

点である相互愛から問いかける。



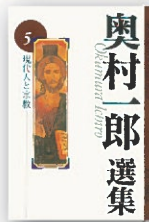
第4巻

日本語とキリスト教

解説：阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、こ

とばと信仰の関係を再考する。



第5巻

現代人と宗教

解説：鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教は

どう向き合っていけるのか。



第6巻

永遠のいのち

解説：八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極

め、永遠のいのちへの道を探る。



第7巻 品切れ

カルメルの靈性

解説：高園泰子

カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通

して、その靈性の根源に迫る。



第8巻

神に向かう〈祈り〉

解説：高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教

の祈りの本質を明らかにする。



第9巻

奉獻の道

解説：宮本久雄

すべての人にみずからを与えつづす奉獻生活を通して、

人間そのものの神秘を見つめる。

全9巻（第7巻のみ品切れ） 四六判・上製／平均240頁 定価各2,200円（税込）

8冊以上で送料サービスとなります。

オリエンス宗教研究所 TEL: 03-3322-7601 FAX: 03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる いのりの道

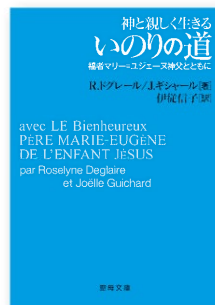
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



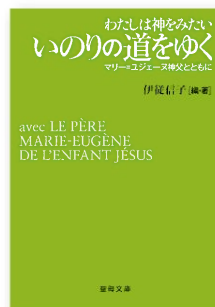
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

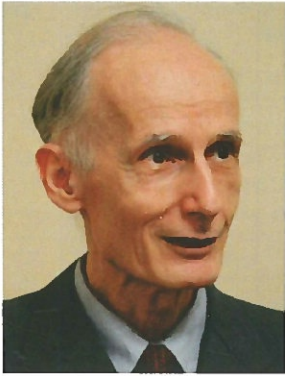
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかがわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2023年12月~)

・祭日のミサに参加するために
チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

2023年 12月24日(日)~25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士
2024年 2月24日~25日

・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士
2023年 12月27日(水)~2024年 1月5日(金)

・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~最終日16時) カルメル会士
2024年 3月23日(土)~24日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2023年12月16日

10の災いとファラオのかたくなさ、シナイ契約と神の慈愛
(ヘセド) (出エジプト記)

2024年1月20日

ルツ記 人による慈愛(ヘセド)と神の慈愛(ヘセド)
ヤコブ(イスラエル)の霊性：神が戦われる

2024年2月17日

民数記の全体構造とメッセージ① 旧世代

2024年3月16日

民数記の全体構造とメッセージ② 新世代

その後のテーマ：ヨシュア記の全体構造とメッセージ、士師記の全体構造とメッセージ、サムエル記の全体構造とメッセージ①、②、列王記の全体構造とメッセージ、エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院(カトリック日比野教会)

参加費無料。

担当：志村武神父(跣足カルメル修道会)

問合せ：日比野修道院(052-671-1003)

静修の集い(名古屋日比野修道院)

2023年12月2日(土) 10:00~15:00

テーマ：十字架の聖ヨハネにおける自由と解放

講話担当司祭：九里彰神父

【スケジュール】

10:00~11:30 講話①

11:30~12:00 ご聖体顕示、念祷

12:00~13:00 昼食(各自持参)

13:00~14:00 講話②、14:10~ミサ、その後茶話会、解散(15:00頃)

持ち物：聖書、昼食(各自)、お持ちの方は『カルメル山登攀』

参加費：無料(自由献金をお願いいたします)

以降の日程：2024年3月9日



宇治カルメル会 黙想会案内 (2023年12月～2024年3月)

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始
2024年
1月20日～21日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父
2024年
2月10日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父
12月13日
2024年
1月17日 2月14日 3月20日

【カルメルの靈性】 (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父
十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父
12月7日
追加 2024年
1月11日 2月13日 3月21日

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父
12月19日
追加 2024年
1月30日 2月20日 3月19日

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可
12/27 (水) ～1/5 (金) 中川博道神父
2024年
3/4 (月) ～13 (水) 中川博道神父

新企画

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

1泊2日(土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可)

追加 2024年

2月10日(土)～11日(日)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしておりますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

12月7日

2024年 1月11日 2月13日 3月21日

「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

12月19日

2024年 1月30日 2月20日 3月19日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：2024年2月10日（土）PM5時～2月11日（日）PM4時

著作：『すべてのいのちを守るため』



イエスのテレサ



リジューのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

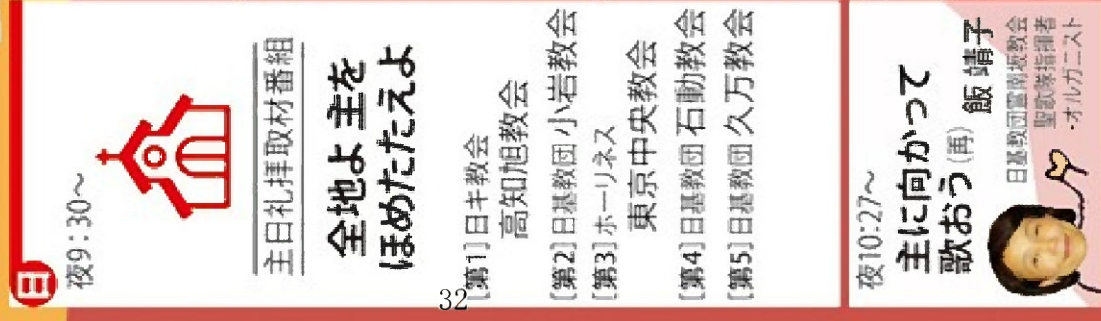
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

番組案内

<p>日 夜9:30~</p> <p>主日礼拝取材番組</p> <p>全地よ 主をほめたたえよ</p> <p>[第1] 日キ教会 高知旭教会 [第2] 日基教団 小岩教会 [第3] ホーリネス 東京中央教会 [第4] 日基教団 石動教会 [第5] 日基教団 久万教会</p> <p>夜10:27~</p> <p>主に向かって歌おう(再) 飯 靖子 <small>日基教団霊楽成教会 聖歌隊指揮者・オルガニスト</small></p>	<p>月 夜9:30~</p> <p>恵子の郵便ポスト <small>FEBBCメイン・バーナナリティー 吉崎 恵子</small></p> <p>[月~金] FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -</p>	<p>水 夜9:47~</p> <p>暗闇の中の光 <small>ヨハネによる福音書(再) 藤盛 勇紀</small> <small>日基教団 富士見町教会 主任牧師</small></p> <p>夜9:47~</p> <p>罪人の頭たちの聖書のことは <small>石垣弘毅</small> <small>日基教団中津津 伝道所牧師</small></p> <p>夜10:14~</p> <p>テゼ・みこころの歌 <small>植松 功</small> <small>敬徳と折しの集い 聖公会世話人</small></p> <p>夜10:14~</p> <p>石巻J-CCM ステーション <small>伊藤 治哉</small> <small>ルーテル同朋 石巻希望の家牧師</small></p> <p>夜10:28~</p> <p>旅の音、心の音 <small>[第1・3・5] 夜10:28~</small> <small>[第2・4] 夜10:28~</small></p> <p>Sr.岡の「だから、大丈夫」 <small>聖母の騎士修道士会会員</small></p>	<p>木 夜9:37~</p> <p>Echo of Voices</p> <p>夜9:47~</p> <p>私の救い、私たちの希望 <small>宮城石巻読書の集い 川上直哉</small> <small>日基教団 石巻栄光教会牧師</small></p> <p>[第2] 夜9:37~</p> <p>ボンヘツプアアーの説教に聴く(再) <small>村上伸</small> <small>日基教団元牧師</small></p> <p>夜10:14~</p> <p>Echo of Voices <small>長倉 崇宣</small></p> <p>夜10:28~</p> <p>御足の跡を <small>小池与之祐</small> <small>日基教団神の愛 基督教団 伝道所牧師</small></p>	<p>金 夜9:30~</p> <p>Echo of Voices</p> <p>夜9:53~</p> <p>Kishikoのひとりじゃないから <small>コスヘルシンガー</small></p> <p>[第1~3] 夜10:04~</p> <p>コーヒー・ブレイク・インタビュー</p> <p>[第3・4] 夜9:37~</p> <p>生きるとは、キリスト <small>小林和夫</small> <small>ホーリネス 東京聖書学院教会牧師</small></p> <p>夜10:22~</p> <p>MeguのCCM insight! <small>Genuine Graceホーカル</small></p>	<p>土 夜9:30~</p> <p>一期一会のみことば <small>加藤智</small> <small>カトリック、さいたま教区司祭</small></p> <p>夜10:33~</p> <p>御心の響き <small>服部みぎわ</small></p>
---	---	--	---	--	--



諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2023年 — 祈りの集いのご案内

テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
- 8月 休み
- 9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
広島サダナ I	2024年 1/6(土)9:00- 8日(月・祝)16:00 ※通いも可能です	Fr. 植栗 Fr. アレックス	西日本霊性センター (広島市麻安佐 南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel: 082-239-0034
フォローアップ	1/21(日) 9:30-17:00	Fr. 植栗	シャルトル 聖パウロ修道女会 九段修道院	来間(くるま) 裕美子※ Tel: 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
名古屋 サダナ II	【前半】 1/27(土)-28(日) 【後半】 2/3(土)-4(日) 9:30-18:00 前半および後半に参 加可能な方のみお申 込み可能です。	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 Tel: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナ I	2/9(金)17:30- 12(月・祝)16:00	同上	汚れなきマリア修 道会・町田黙想の 家	来間(くるま) 裕美子※
サダナ II	2/21(水)17:30- 25(日)16:00	同上	同上	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax: 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。

●入門 C への参加…入門 A または入門 B を終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は記録的な猛暑が続いておりますが、お元気でお過ごしでしょうか。コロナ感染のため、2020年から休止しておりました「祈りの集い」を再開することにいたしました。

集いの前半では、「祈りについての講話」をいたします。

いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』（2017年、サンパウロ社）を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在を支えておられる神の前にありのままの自分を置き、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所：イグナチオ教会岐部ホール 404号室

（JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分）

時間：以下の木曜日、13:00～15:00

2024年1月11日（木）

3月14日（木）

主催：慈しみ深き会

指導：九里^{くのり} 彰神父（カルメル修道会）

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原（11:00～20:00）



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものごとまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
今号も以て、冊子の発行を終了致します。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

